

BTMU CHINA WEEKLY

EXPERT VIEW: 減税時代の税務リスクマネジメント(2)

決算・財務報告プロセスのチェックポイント

今回は決算・財務報告プロセスに関する内部統制のチェックポイントを考えてみましょう。

決算・財務報告プロセスは税務計算・申告の要であり、いうまでもなく最重要プロセスです。内部統制の構築或いは運用状況のテストを担当する方は、十分な時間を割いて申告書の裏に潜む問題点や課題をあぶり出す意気込みで作業に臨みましょう。

統制項目の作り込みでは、経理部門のみならず、関係する各部門の業務プロセス（例えば、営業部門の「販売プロセス」、購買部門の「仕入プロセス」における統制手続には、増値税に関連するチェック項目が含まれることでしょう）にも同様の手続をビルトインすることで、過誤や誤謬を防止する効果が高まります。

運用状況のテストでも同じく、経理部門でのウォークスルー及び責任者・担当者への質問はもちろんですが、各業務プロセスの担当者に対する聞き取り調査も行なうべきでしょう。業務担当者への質問により、慣例や思い込みから来る、誤認識に基づく経理処理の継続が発見されることもあります。

経理組織及び会計・税務方針のチェックポイント

- 経理組織は事業規模や業態からみて適切な機能を有し、必要十分な人員が配置されているか
- 経理、財務、税務の各業務の内容と分担が明確になっているか
- 会社の採用する会計方針は税務計算に関する規定に合致しているか / 不一致がある場合には会計と税務計算の差異を正しく加減算調整しているか
- 税務処理の方針及び計算方法を税務当局に届け出ているか / 方針及び方法の変更は適用年度開始前に届け出ているか

これらは基本的なチェック項目ですので、全てに“✓”が入る（YES の回答である）べきでしょう。経理部門の作業担当者及び各業務プロセスの担当者への運用テストでは、上記のポイントに加えて「経理部門との業務配分は適正ですか?」、「風通しは良いですか?」などの質問を加えてもよいでしょう。特定個人に業務負荷が掛かりすぎ、そのことを部門責任者が認識していないと職場の雰囲気も悪くなり、情報が円滑に流れなくなります。部門責任者の前では言いにくいことも積極的に質問し、作業環境の改善に一役買ってみてはいかがでしょうか。

決算（申告）準備のチェック項目

- 決算仕訳一覧を作成しているか / 前年度と比較し、新規或いは増減の大きな処理につき原因を理解しているか
- 税務申告の方針、手順がマニュアル化され、責任者の承認を受けているか
- 親会社から最新の関係会社一覧を入手しているか

- 会計システムのデータ及び計算式が改ざんされないように適切に管理されているか / 会計システムより自動計算される会計上の利益と税務上の課税所得との加減算調整額の正確性を検証しているか
- エクセルなど表計算ソフトのコントロールを適切に行なっているか / 表計算ソフトにより計算される会計上の利益と税務上の課税所得との加減算調整額の正確性を検証しているか
- 申告書類、財務諸表、会計帳簿、証憑を分類整理しており、法定保管期間にある書類を全て備えているか

決算・財務報告プロセスの正確性、適切性は税務申告に直接影響を与えますので、これらのチェック項目は、経理責任者と作業担当者双方が共に必要性を深く理解していることが重要です。いずれも決算、税務申告に必要な項目ばかりですが、“決算仕訳一覧の前年比較”は、概括的な確認を比較的短時間でこなうことができますのでお勧めです。

勘定科目のチェック項目（BS科目）：

- 現金：帳簿外の本社、総経理・経理部長等個人が実質的に管理する小口現金はないか
- 売掛金：入金は請求書単位となっているか / 請求書単位となっていない場合の未決済残高について、顧客と定期的に確認しているか
- 貸倒引当金：売掛金・未収入金・貸付金・投資勘定の残高に対して、引当金が十分に積まれており、税務上は調整が行なわれているか
- その他未収入金：長期に亘り未決済となっている従業員貸付金はないか / 従業員のための住居、車両、会員権などの実質的な購入に充当していないか
- 在庫：在庫の非正常損失が生じた場合に、当該在庫に係る仕入増値税の転出処理を行なっているか
- 固定資産：新規購入固定資産の発票の記載内容など損金算入の条件を充足していることを確認しているか
- 固定資産：固定資産の廃棄につき、税務当局への申請等必要な手続を行なった上で損金計上しているか
- 買掛金：支払は契約書（請求書）ごとに行なっているか / 契約書（請求書）ごとでない場合の未決済債務について、仕入先と定期的に残高を確認しているか
- 未払給与・賞与：未確定債務である場合は税務上加算調整しているか

現金管理は以前にも取り上げましたが、不正の温床となる可能性が高いため、決算時のみならず、日頃のチェックも必要です。税務上の発票（インボイス）発行・入手基準で計上されがちな「売掛金」、「買掛金」の年末残高確認もしっかり行なって下さい。未払給与・賞与を含む未払費用は原則として損金不算入となり税務上の調整事項となります。その他税務局の許可を得ずに固定資産を廃棄してしまい、税務調整を受ける例がありますので注意が必要です。

勘定科目のチェック項目（PL科目）

- 売上・収入：発生主義に基づき売上高を認識しているか
- 売上原価：発生主義に基づき仕入高を認識しているか
- 原価計算：材料払出数量を継続記録法により把握しているか（実地棚卸から使用量を逆算する方法ではないか）
- 販売費用：交際費、広告費の損金算入限度額を計算し、限度超過額を加算調整しているか

- 管理費用：福利費の損金算入限度額を計算し、限度超過額を加算調整しているか
- 財務費用：外貨建債権債務の期末レートによる換算損益は正しく計算されているか

売上・収入、売上原価の計上が、発票発行・入手基準となっていないか、資料の閲覧及び担当者へのインタビューで確かめます。

費用関係の計上では発票が伝票等の証憑と共に記録・保管されているかを確認して下さい。また、発票が正式なものか（まだまだ偽物の発票が流通しています）、金額の大きい支出については、定期的にサンプリングして税務局の発票照合サイトで真偽を確認してみましょう。

販売費、管理費では、交際費、広告費、福利費の計上が妥当か否か、税務上認められている損金算入基準を超えた額を加算調整がされているかをチェックします。財務費用では、外貨建債権債務は毎月末レートにて換算し、為替差損益を認識します。業務担当者には忘れず為替差損益の認識を行うよう指導しましょう。

決算・財務報告にかかる税務上の加減算調整は会計監査人、税務申告代理人に任せきりで業務責任者・担当者による理解が不十分な会社も見受けられます。できるだけ自社で税務調整計算を行い、専門家にはその結果を確認してもらうプロセスを構築しましょう。

上海衆逸企業管理諮詢有限公司
(上海ユナイテッド アチーブメント コンサルティング)
執行董事 鈴木康伸 (日本国公認会計士)

CHINA WEEKLY

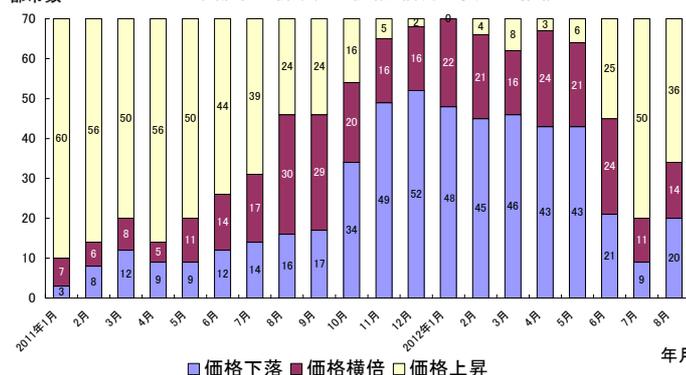
WEEKLY DIGEST

【産業】

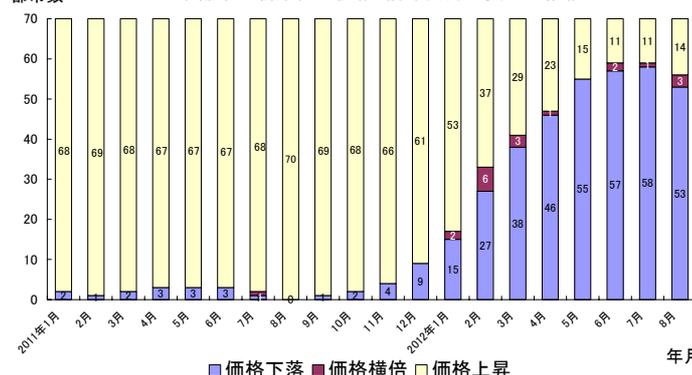
◆8月の70大都市住宅販売価格 36都市で前月上昇

国家統計局は18日、8月の70大都市の不動産価格指数を発表した。新築商品住宅で価格が前月上昇した都市は70都市中36都市となり、前月の50都市より減少したものの、過半を占めた。うち、江蘇省無錫市が前月比+0.6%と上昇率が最も高かった。また、対前年同月比で上昇した都市は14都市で、前月の11都市より3都市増加した。なお、中古住宅価格については、前月比で上昇した都市は38都市（前月比不変）、前年同月比で上昇した都市は10都市（同1都市減少）となった。

都市数 <70大都市の新築住宅価格：前月比変化の推移>



都市数 <70大都市の新築住宅価格：前年同月比変化の推移>



◆8月の自動車生産・販売台数ともに前月から回復

中国自動車工業協会の10日の発表によると、8月の自動車生産台数は、前月比+4.5%の150.14万台、販売台数は同+8.4%の149.52万台となり、生産・販売ともに前月比減少となった7月から大幅に回復した。1-8月の累計では、生産は前年同期比+5.2%（1,247.03万台）、販売は同+4.1%（1,247.47万台）で、伸び率は1-7月からそれぞれ0.4ポイント、0.5ポイント拡大した。8月単月の車種別では、乗用車の生産は前月比+3.7%（前年同月比+10.0%）、販売は前月比+8.8%（前年同月比+11.3%）と安定的に推移した。一方、商用車は生産が前月比+8.2%、販売が同+6.6%と、7月（生産：同▲7.4%、販売：同▲11.7%）から持ち直したものの、前年同月比では▲1.2%、▲3.4%と減少しており、同協会は、商用車の通年の生産・販売台数が前年比増加に転じる可能性は依然として低いと指摘している。

◆財政部 省エネ補助金の支給対象拡大 1,556億円の消費刺激効果を見込む

財政部はこのほど、今年6月から開始している省エネ補助金制度の対象に、新たに6品目を加えると発表した。対象品目は、デスクトップPC、ユニット型エアコンの家電2品目と、送風機、ウォーターポンプ、コンプレッサー、変圧器の産業機器4品目で、期限は暫定1年としている。今回投入される政府予算は140億円で、対象品目の買い替えにより、年間313億キロワット時の節電効果と1,556億円の消費刺激効果が期待できるとの試算を示している。同部は、国内の潜在消費の喚起により中国経済の安定成長を図るとともに、省エネ商品の普及で環境にやさしい消費スタイルを確立するとの方針を強調している。対象品目の型番、制度の具体的な開始日や支給方法等の詳細は、今後徐々に明らかにされる予定。

【金融・為替】

◆8月の人民元新規貸出 前月比1,638億元増の7,039億元

人民銀行の11日の発表によると、8月の人民元新規貸出は7,039億元となり、前月比+1,638億元（前年同月比+1,555億元）と大幅に増加した。社会融資規模も、前月比+1,885億元（前年同月比+1,666億元）の1兆2,400億元に拡大した。また、8月末時点のマネーサプライ（M2）は前年同月比+13.5%の92兆4,900億元と堅調に増加したものの、伸び率は7月の同+13.9%に比べ、僅かに縮小した。同時に発表されたクロスボーダー人民元決済は、経常項目では貨物貿易が1,900億元、サービス貿易及びその他が810億元、資本項目では対外直接投資が12億元、対内直接投資が200億元となった。

（注）：社会融資規模＝人民元貸出＋外貨貸出＋委託貸出＋信託貸出＋銀行引受手形＋企業債券＋非金融企業株式融資＋保険公司賠償＋投資用不動産＋その他

◆「2012年上半期中国国際収支報告」資本収支の黒字は大幅減

国家外貨管理局は12日、「2012年上半期中国国際収支報告」と7月の国際収支統計速報の修正値を発表した。1-6月の経常収支の黒字は前年同期比12%減少して772億米ドル、経常黒字のGDPに占める比率は2011年通年の2.8%から2012年1-6月は2.1%に下落し、経常収支が一段と均衡水準に近づいているとした。1-6月の資本・金融収支の黒字は前年同期比92%減少して149億米ドルとなった。資本・金融収支について、1-3月は国際市場の好転を受けて561億米ドルの資本純流入となったが、4-6月は欧州債務危機の深刻化に伴い、リスク回避傾向が強まって412億米ドルの資本純流出となり、双方向でのクロスボーダー資本移動が顕在化したと指摘した。また、資本項目の内訳を見ると、直接投資の1-6月の累計は前年同期比3%減少して900億米ドルの純流入、うち、対内直接投資が同+6%の1,181億米ドル、対外直接投資が同+53%の281億米ドルとなっており、外資離れは見られないことを改めて強調した。なお、1-6月の外貨準備高の増加額は、前年同期比2,174億米ドル減少して636億米ドルとなった。同局は今後の外管管理政策について、引き続きクロスボーダー資金移動の動向に細心の注意を払いつつ、貨物貿易決済の利便性の向上、直接投資外貨管理の簡素化、人民元・外貨の金融派生商品の充実等を図っていくとした。

< 国際収支推移(2006年~2012年(上半期)) > 単位:億米ドル

項目	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年(上半期)
国際収支(黒字総額)	2,811	4,474	4,607	4,417	5,247	4,228	921
経常収支(黒字)	2,318	3,532	4,206	2,433	2,378	2,017	772
GDPに占める比率	8.5%	10.1%	9.3%	4.9%	4.0%	2.8%	2.1%
資本・金融収支(黒字)	493	942	401	1,985	2,869	2,211	149
GDPに占める比率	1.8%	2.7%	0.9%	4.0%	4.8%	3.0%	0.4%

(出所)国家外貨管理局「2012年上半期中国国際収支報告」

人民元の動き

日付	USD				JPY(100JPY)		HKD		EUR		金利(1wk)	上海A株指数	
	Open	Range	Close	前日比	Close	前日比	Close	前日比	Close	前日比		指数	前日比
2012.9.10	6.3370	6.3321~6.3429	6.3376	-0.0054	8.0959	0.0598	0.81711	-0.0007	8.1043	0.0635	3.0000	2235.76	7.45
2012.9.11	6.3386	6.3293~6.3600	6.3351	-0.0025	8.1010	0.0051	0.81698	-0.0001	8.1020	-0.0023	3.0000	2220.72	-15.04
2012.9.12	6.3290	6.3225~6.3297	6.3264	-0.0087	8.1276	0.0266	0.81577	-0.0012	8.1550	0.0530	3.4300	2226.97	6.25
2012.9.13	6.3258	6.3241~6.3327	6.3296	0.0032	8.1549	0.0273	0.81622	0.0004	8.1790	0.0240	3.4300	2210.02	-16.95
2012.9.14	6.3205	6.3145~6.3228	6.3145	-0.0151	8.1268	-0.0281	0.81490	-0.0013	8.2268	0.0478	3.3600	2224.15	14.13

(資料) 中国外貨取引センター、中国人民銀行、上海証券取引所資料より三菱東京UFJ銀行国際業務部作成

RMB レビュー&アウトルック

先週の中国人民元は米雇用統計を受けた追加緩和期待の高まりを背景に米ドル売りが強まるなか、先週末比元高となる6.3370で寄り付き、堅調に推移した。ドイツ憲法裁判所によるESM設立に対する合憲判断や米追加緩和を受けてユーロ相場が堅調に推移したこともあり(人民元は対ユーロで1.5%下落)、5月下旬以来となる6.32割れを示現している。今週も米追加緩和を受けた米ドル売りの流れは継続するとみられ、人民元相場は堅調に推移しよう。もっとも政権交代を間近に控えて政府は人民元相場の「安定」を求めるであろうことから、一方的な元高誘導も見込みにくく、上値余地も限られよう。なお、次期指導部を選出する党大会について中国外務省報道官は具体的な日程を公表していないものの、10月中旬の開催が濃厚となっている。

(9月18日作成) (市場企画部市場ソリューション室 グローバルマーケットサーチ)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいませよう、宜しく申し上げます。当資料は信頼できる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。